

創薬を指向した蛋白質・遺伝子機能解析の現状と展望
Protein and gene function analysis for innovative drug development
堤 康央¹, 水口 裕之¹(¹国立衛研 大阪支所)

ヒトゲノムシーケンス解析が完了し、創薬を指向したライフサイエンス研究の主流は蛋白質や遺伝子の機能解析や構造解析へと移行している。本シンポジウムでは、蛋白質・遺伝子機能解析やその有効活用技術の現状とその将来展望について、若手研究者を中心として様々な薬学的視点から考えてみたい。